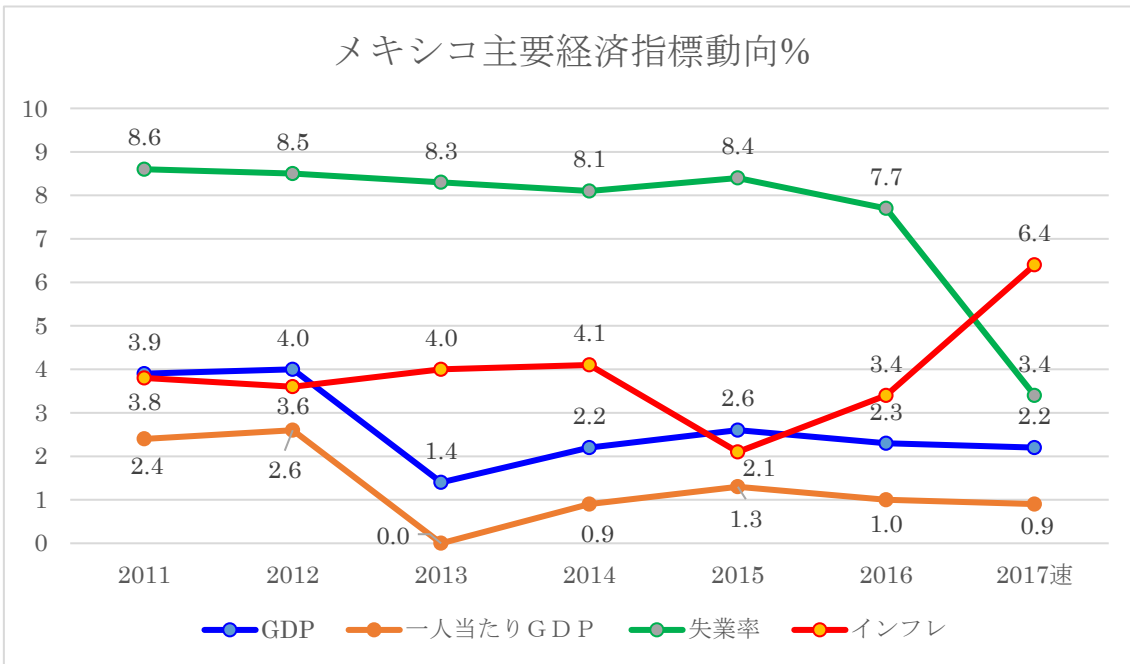


## メキシコ大統領選挙で何が問われているのか

ラテンアメリカにおける大国、人口1億2,900万人（世界第11位）、GDP1兆1,407億ドル（世界第15位）のメキシコで、7月1日総選挙（大統領選挙、国会上院・下院議員選挙、9つの州知事、基礎行政区長、市長など）が行われます。開票は翌日です。

周知のように現在メキシコは、長く続く新自由主義政策のもとで、北米自由貿易協定（NAFTA）を通じて米国への従属が増大し、政治、経済、社会、外交において大きな難題を抱えています。国内は史上稀有の暴力行為があふれ、経済成長は停滞し、インフレが亢進し（グラフ1）、貧困人口は増加して50%を越え、所得格差は一向に改善されません（グラフ2）。10%の富裕者が、80%の富を所有していると報告されています（CEPAL）。また政治のいたるところに汚職が見られるとともに、石油収入の減少で、加工貿易を除く、主要な2大外貨収入は、米国との麻薬密輸取引と米国からの250億ドルに上る家族送金となっています。2017年には2万9,000人が殺害され、130人の政治家、4名の新聞記者も殺害されています。女性の41.3%が性犯罪被害者と報告されています。メキシコは、各種制度が破壊され、法治国家でなくなったと指摘する人も少なくありません（Telesur, 18.06.27）

（グラフ1）

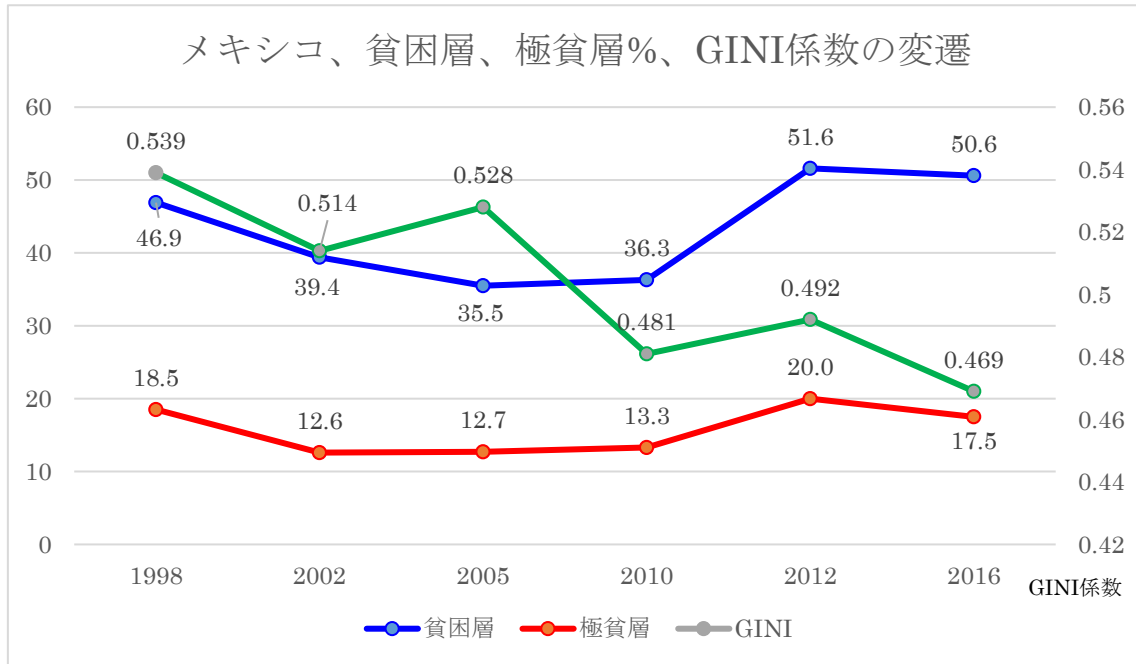


出所：CEPAL 資料より、筆者作成

こうした問題に取り組む大統領を選ぶ統領選挙では、事前の世論調査では、選挙連合、「共に歴史を作ろう」（左派連合）のオブラドール候補が、すべての世論調査で、2位以下の候補者に20%以上の差をつけて、独走状態です（グラフ3）。2位は、選挙連合「メキシコ前進」（右派連合）のアナヤ候補、3位は、「みんなメキシコのために」（中道右派連合）のミード候補です。オブラドール候補は、民族再生運動、労働党などを率い、アナヤ候補は、右派政

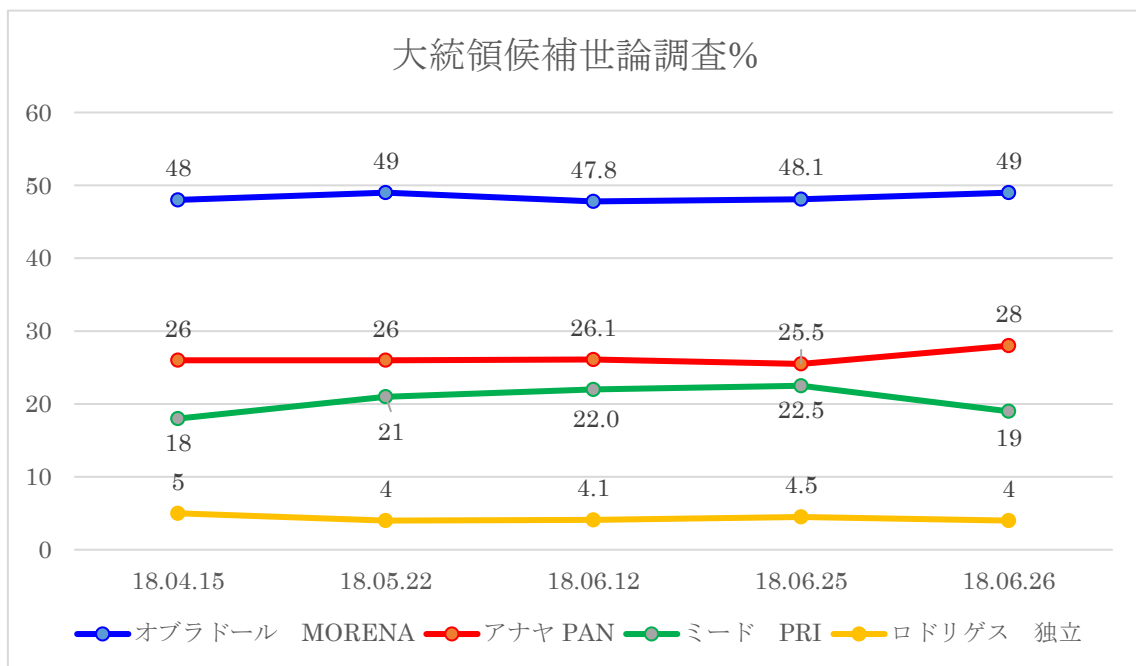
党の民族行動党と、中道左派政党と見られていた民主革命党との連合候補で、ミード候補は、制度的革命党、環境緑の党、市民運動党などを結集する中道右派候補です。民主革命党は、国会議席や州知事、市長職を目標に民族行動党と連合を組み、かつての左派的性格を失い、右派的転換を行っています（グラフ4）。

(グラフ2)



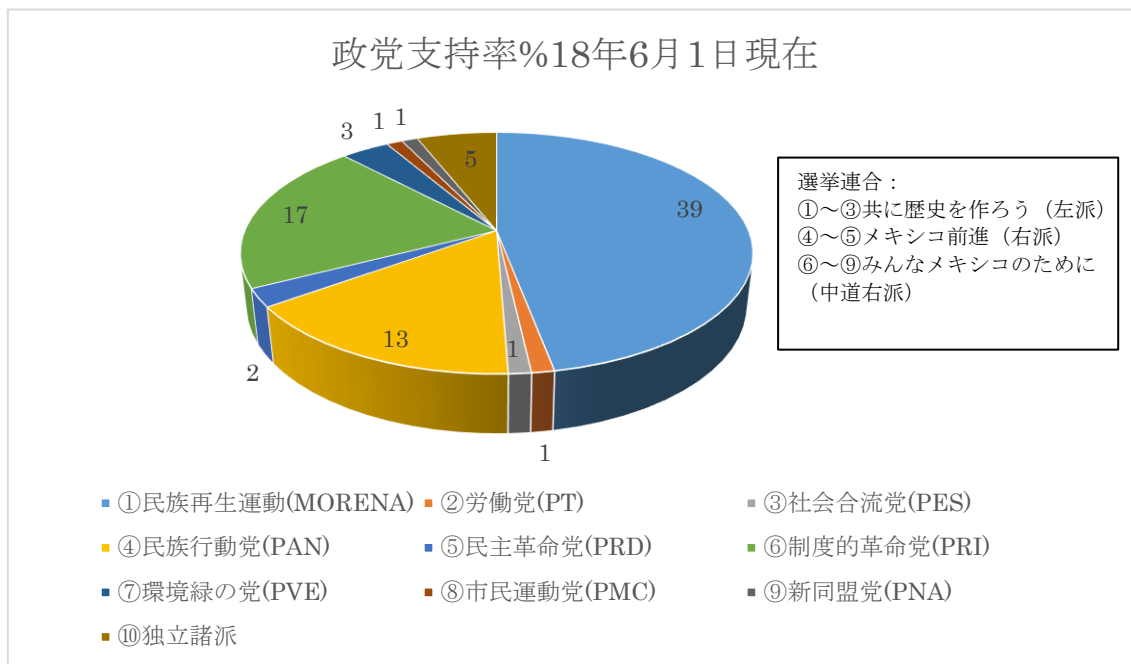
出所：CEPAL 各種資料から筆者作成

(グラフ3)



出所：各種資料より筆者策作成

(グラフ4)



出所：各種資料より筆者策作成

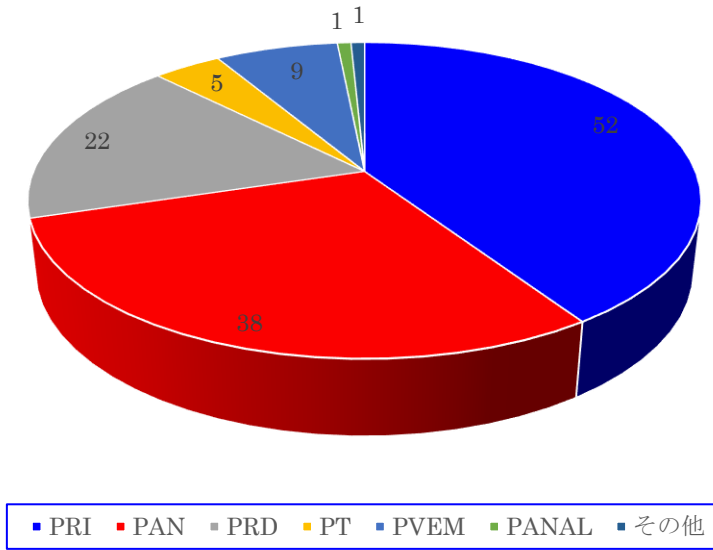
多くの国民は、政治への信頼を失い（投票率 60%程度）、政治に信頼を維持している人々は、法治国家の回復、上記の経済社会問題の解決を真剣に願っています。現在の複雑な難題に本格的に取り組む具体的な政策を、オブラドール候補以外は提起していません。

オブラドール候補は、20%以上の差をつけていますが、メキシコの少なからずの識者が、不正選挙（買収、ゆすりなど）で敗退することもあると述べています。しかし、前回の 2012 年の選挙（ほとんどの世論調査で制度的革命党のペニャ・ニエト候補が 10%程度リード）と違って、大幅な不正選挙は、国民が許さないのではないかと思います。

オブラドール候補は、独立革命（1810年）、メキシコ革命（1910年）、カルデナス改革（1934年）に続く、「第四の変革を、平和で、組織された方法で、暴力なしで、諸悪の根源である汚職と戦い、徹底した社会改革」をめざすと述べています。オブラドールの改革を進める基盤となる国会議員選挙がどうなるかも注目されます（グラフ5、6）。オブラドール候補は、勝利した暁には、米国資本に依存するメキシコ経済を維持しつつ、腐敗した官僚層、これまでの特権にしがみついた寡頭制支配層、保守支配層、麻薬マフィアなどの強固な抵抗と戦わなければなりません。オブラドール候補がいうように新しいメキシコ史が作られるかどうか、多難な前途が予想されます。

(グラフ5)

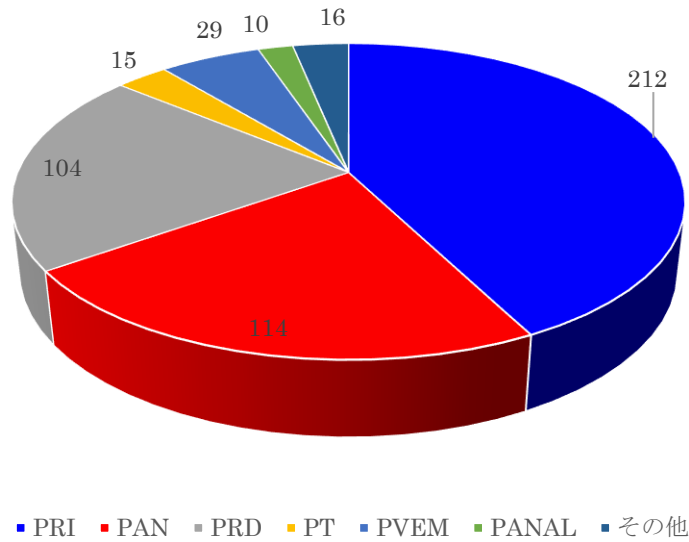
メキシコ上院議席数、総数128名、2012～



出所：各種資料より筆者作成

(グラフ6)

メキシコ下院議席数、総数500名、2012～



PRD の 104 議席のうち、現在 MORENA が 47 議席を占めています。

出所：各種資料より筆者作成

(2018年6月29日 新藤通弘)